

クレアソウル

Council of Local Authorities
for International Relations, Seoul

News Today Vol.2

2010

**動き始めた物産展と
日本酒市場拡大への
取組み**

にほんのあっちこっち

韓国著名漫画家による
日本の魅力再発信

**新しいCIRが
今年も海を渡ります**

**韓国地方行政研究院
とのシンポジウム等の
共同開催**

**韓国の進んでいる施策を
報告します**

(ICT, 消防・防災, 多文化共生, 済州特別自治道)

動き始めた物産展と 日本酒市場拡大への取組み

物産チーム 朝長 浩志 岡元 隆太郎





静岡物産展「富士山と桜の本場! - 静岡味紀行」の開催

韓国で強いブランド力をもつ「新世界百貨店」において、3月19日から静岡物産展が開催されました。「江南店（ソウル市）」、「本店（ソウル市）」、「京畿店（龍仁市）」で1週間ずつ、計3週間行われました。いずれも優良顧客を多く抱える新世界百貨店の中でも主要な店舗です。

クレア・ソウルの事業で昨年静岡を訪れた、韓国の著名漫画家ホ・ヨンマン氏も、26日「本店」に駆けつけ、サイン会をしていただきました。

今年度は、各自治体に対して行った意向調査に基づき、今後「富山・岐阜」、「北海道・岩手」の2つの物産展を計画しています。

それでは、静岡物産展の内容をお伝えする前に、韓国での物産展を巡るこれまでの状況について説明します。



物産展の背景

韓国では、美味しく、しかも安全な日本の食品へのニーズは根強いものがあります。おでん、納豆、いなり寿司、トンカツ、コロッケ、団子など、多くの日本食品が定着しています。

しかし、近時、韓国側企業が、**リスクを伴う新規食品の輸入に慎重**で、消費者の要求が満たされていません。また、日本側企業は、海外進出への不安感から、積極的になれないようです。

このような中、**日韓双方の企業にとって魅力ある物産展を創**ることが課題でした。

一方、韓国直行の航空便が就航する自治体では、韓国からの観光誘客が大きな課題となっています。多くの顧客が訪れる**物産展で観光を一体的にPR**することにより、観光誘客への波及効果も期待できます。



静岡物産展が開催された新世界百貨店江南店

新しい物産展のスキーム

クレア・ソウルでは、「新世界百貨店」などと協議を重ね、**新たな「物産展」の形**を模索して来ましたが、その結果、以下の3点を基本とするスキームが作られました。

「新たな地域の食品を韓国で紹介」

物産展の主目的は、韓国で知られていない地域の食品を紹介し、**テスト**することです。今回の物産展は、民間企業による商業ベースが基本となっています。これに、自治体とクレア・ソウルが必要な支援を合わせて行うことで、商業ベースだけでは困難な**新たな食品販売へのチャレンジをサポート**します。

また、売れ行きが好調な食品は、新世界百貨店等での**継続販売に移行**するので、韓国市場への定着の道が開かれています。

さらに、今後、新世界百貨店や韓国流通業者と日本側企業との**マッチング**、すなわち取引関係をどう強化するかも検討することとしています。

「物産展と観光誘客の一体的な推進」

物産展のスペースに**観光ブース**を設置し、観光DVDの放映やパンフレットの配布などのPRを行います。

また、①その自治体を連想させるような**会場装飾**、②**DM**（ダイレクト・メール）や**チラシ**による自治体情報の広範な露出なども行います。

これらにより、韓国国内でのその**自治体の認知度を高める**ことを目指します。

「継続的な物産展の開催」

継続的に物産展を開催することで、日本の産品を韓国の消費者が楽しみにするようになります。例えば、韓国ではオーストラリアの物産展が人気で、継続して開催されています。

また、自治体は、このスキームを活用することにより、**自己開催よりも容易**に、かつ、効果のある物産展を開催できます。

この3つの点を実現するため、①韓国のイベント**企画会社**が物産展の主催者となり、演出やPR、イベントなどを全体的に調整する、②企画会社と新世界百貨店、自治体、クレア・ソウルが意見を交換しつつ、具体的に企画・実施をするという**推進体制**が作られました。



静岡物産展を紹介するDM





静岡県物産展の内容

静岡県物産展は、**新しいスキームの最初の物産展**となりました。

富士山や茶畑、桜といった「**静岡の春**」をテーマに装飾された物産展会場には、特産品の「お茶」、「うなぎの蒲焼」、「おでん」、「わさび」、「ラムネ」、「うなぎパイ」などが並べられました。多くの来場者が、手に取って眺めたり、**静岡県の法被**で統一された販売スタッフに質問をしたりしていました。

顧客には、お買い上げいただいた食品を、ハングルで「静岡」と書かれた**ショッピング・バッグ**に入れてお渡ししました。全てのバッグには、事前に県の**観光リーフレット**を入れ、PRに努めました。

日本酒コーナーでは、静岡の地酒を中心に試飲・販売が行われました。「**いたわさ**」を試飲の酒の肴に提供したことや、**販売価格を極力抑えた**こともあり、人気を博していました。

多くの顧客にご来場いただくため、事前に**DM**（ダイレクト・メール）を送付しました。企画会社からの**DM6,000部**に加え、新世界百貨店本店の**DM7万部**とチラシ**15万部**にも物産展の情報が掲載されました。

顧客サービスのため、3万ウォン（約2,600円）以上お買い上げの顧客全員に、**粗品**としてお茶を配布しました。また、**静岡への旅行クーポン**や地酒等の**静岡の食品**を抽選で贈呈しました。

一方、会場には**観光ブース**を設け、昨年6月開港した「富士山静岡空港」を活用した静岡の観光PRに努めました。パネルの設置や観光パンフレット配布のほか、静岡県**観光DVD**や昨年のホ・ヨンマン氏訪問時の映像を繰り返し放映し、富士山や温泉、SL、うなぎ、わさびなど、静岡の多彩な魅力を発信しました。

さらに、**国際交流基金**ソウル日本文化センターの協力を得て、基金の展示スペースをお借りし、静岡物産展の広報を行いました。



その他日本酒を巡る動き

前号でも述べましたが、韓国では日本酒の消費が拡大しています。以下、静岡物産展での取り組み以外の最近の新たな動きをお伝えします。

今年1月、**日本酒造組合中央会の試飲会**がソウルで開催されました。中央会も韓国市場に大いに関心があるとのことでした。

30社以上の蔵元が来韓されました。会場には多くの流通関係者や愛飲家が集まり、絶好のPRの機会となりました。

また、1月末から3月まで、済州島の最高級リゾート「**済州新羅ホテル**」で、**日本酒プロモーション**が開催されました。ホテル側の依頼により、クレア・ソウルがコーディネートし、今回は酒類輸入業者の「**サカヤコリア**」がイベントに参加しました。この会社は、岩手の蔵元「あさ開酒造」を中心に、現在東北の3つの蔵元の日本酒を扱っている韓国の酒類輸入業者です。

ホテルのメイン・バイキングでは、カニや刺身、寿司など日本酒に良く合う料理が並んでいます。最高級ホテルで日本酒を飲むことが定着すれば、**イメージ戦略**に大いに役立ちます。

期間中、顧客への試飲会のほか、顧客に対して日本酒を説明するホテル従業員への講習会などが行われました。

サカヤコリアからホテルへの販売量は、開始から**1か月間で、200本(720ml換算)**を越えたとのことでした。

クレア・ソウルでは、新世界百貨店物産展での日本酒の紹介を充実するとともに、引き続き「新羅ホテル」等とタイアップし、さらに質の高い日本酒プロモーション・イベントを検討したいと思っています。



日本酒プロモーションが開催された済州新羅ホテル

株式会社 サカヤコリア

「サカヤコリア」は、岩手県のあさ開を主体に、蔵元が共同で設立した韓国法人です。

韓国における日本酒は、日本におけるワインのように、さまざまなシーンや料理にあわせて、選び、味を楽しむようになると考えます。そのためには、誰でも気軽に楽しめる価格で販売することが大切だと考え、蔵元が直接輸入販売する会社を設立しました。

設立直後、クレア・ソウルから済州新羅ホテルの日本酒プロモーションをご紹介いただき、プロモーションの成果でも良い手応えを感じています。

また、3月には新世界百貨店で催された静岡県物産展で日本酒コーナーを担う機会をいただきました。販売価格を抑えたほか、いたわさとの食べ合わせ、熱燗と冷酒の飲み比べ、日本酒グッズの抽選会などを行い、来場者の好評を得ることができました。

クレア・ソウルの皆様には感謝しております。

専務理事
佐々木和義さん



新世界百貨店 クォン・ヒョグォンさんへのインタビュー

Q 新世界百貨店では、食品の販売に関して、どのような方針で臨まれていますか？

A 韓国内で世界の食文化を紹介するリーダーとなるため、新しい商品を継続して韓国の皆さんに紹介しています。例えば、日本以外では、オーストラリアなどの物産展を行っています。

別の言い方をすれば、新世界百貨店では、「百貨店の差別化は、食品に始まり、食品に終わる」と考えており、食品の販売を通して他の百貨店との差別化を図りたいと考えています。

Q 新世界百貨店では、日本の食品が数多く見かけられるようになりましたね。

A 韓国と日本の食文化は似ているので、韓国の皆さんに人気があり、取扱いも拡大しています。

Q 3月に静岡物産展を開催しましたが、そのご感想をお聞かせください。

A これまでのように、単に店頭で物品を販売するだけではいけません。今回の物産展では、静岡県ソウル事務所やクレア・ソウルと協力することで、地域の文化などを組み合わせて、ストーリー性を持ってPRできました。意義のある物産展になったと思います。

Q 今後の予定などについてお聞かせください。

A 静岡物産展に続いて、今年の秋に「富山・岐阜」、来年の冬に「北海道・岩手」の物産展を計画しています。

Q 我々も、日本の物産展が韓国の人に注目され、日本商品の販路拡大に繋がることを期待しています。

A 新世界百貨店と日本の自治体、クレア・ソウルとの相互協力関係をさらに発展させていきたいです。日本の物産展が、年中行事として回を重ね、韓国の中で代表的な国際物産展となることを願っています。

最後に、今回、積極的な関心と協力をいただいたクレア・ソウルに対し、感謝申し上げます。

Q こちらこそ、ありがとうございました。

Q クレア・ソウル

A クォン・ヒョグォンさん(前・営業本部 加工食品チーム主任)

にほんの あっちこっち

～韓国著名漫画家による日本の魅力再発信～



はじめに

本事業は、食を中心に日本の文化を韓国で紹介したいと考えた漫画家ホ・ヨンマン氏と、韓国から日本への観光客の送客に力を入れている韓進観光、そしてクレア・ソウルの三者が協力して、2008年10月より準備を始め、2009年4月に第1回の取材旅行を実施したものです。

その後、前回ご紹介した ①秋田、②静岡につづいて、これまでに、③青森、④鹿児島、⑤北部九州（北九州市、大分市、別府市）を取材しました。

これらの取材を元に、ホ・ヨンマン氏と韓進観光は韓国内で取材記事の発表や旅行商品の販売を行っています。旅行はもちろん、食文化と言う視点からも、多くの方々に各地域の魅力をPR出来ているのではないかと考えています。

本文では、当事業の概要について改めてご紹介した上、三つの地域の取材の様子をお伝えしたいと思います。



事業概要

取材団は5名程度（同行クレア職員を除く）で、ホ・ヨンマン氏、アシスタント、動画カメラマン、韓進観光日本担当職員等で構成されます。

日程は4泊5泊～5泊6日程度とし、取材団の日本滞在経費の一部をクレアで支援します。

2010年度は、各自治体に対して実施した意向調査に基づき ①茨城、②長崎、③岡山及び鳥取、④和歌山、⑤愛媛、⑥北海道を取材する予定です。

自治体と韓国側（ホ・ヨンマン氏、韓進観光、クレア・ソウル）との間で取材日程調整

現地取材

新聞掲載
（電子新聞でも掲載）

旅行商品発売

インターネット掲載

今後取材を詳しくまとめた
単行本を発刊予定

青森

北部九州

鹿児島

CLAIR SEOUL

※ 取材実施後の流れは順序が変わる場合があります。



中央SUNDAY

韓国三大新聞社の一つ**中央日報**グループにより2008年に発刊された。韓国では唯一の日曜紙。**発行部数 35万部**。発刊以来、首都圏のみで配布されていたが、2009年4月よりエリアを拡大し釜山等地方の大都市（広域市）でも購読できるようになった。購読者層は、**オピニオンリーダー（ハイエンド）**であり、発行部数のほとんどが個別宅配である。この他、韓国国内ホテルや、鉄道（KTX）、韓国発の飛行機などに置かれ、多くの方に読まれている。



中央SUNDAYの掲載記事（鹿児島・さつま焼酎）



韓進観光

韓国の財閥である**韓進グループ**の旅行部門。国内外の旅行商品の企画・販売を手掛けている。同じ韓進グループとして、大韓航空や韓進海運などがある。ソウルの本社には北海道、本州、九州、フェリー商品の各チームからなる日本グループがあり、日本にも札幌、東京、名古屋、大阪、広島、福岡に事務所を構えている。2009年は130種類余の旅行商品を企画・販売し、約1万5千人の韓国人観光客を日本に送っている。



「韓進観光」日本旅行サイトトップページ（右上画像「食客」と書かれているのが本事業を元に作られた商品）



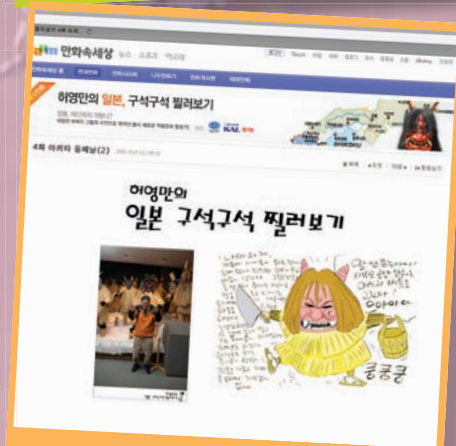
DAUM(ダウム)

韓国2大インターネットポータルサイトのひとつ。2010年1月の訪問客数は290万人に上る。

（参考）韓国国内の各ポータルサイトのアクセス状況

順位	ドメイン	総訪問者(*1000)	順位	ドメイン	総訪問者(*1000)
1	www.naver.com	30,921	6	www.chosun.com	18,330
2	www.daum.net	28,789	7	www.tistory.com	17,721
3	www.nate.com	25,160	8	www.gmarket.co.kr	17,658
4	www.cyworld.com	22,267	9	www.auction.co.kr	17,416
5	www.join.com	18,347	10	www.yahoo.co.kr	17,307

出典:Koreanclick (http://www.koreanclick.com/)



DAUM(ダウム)の掲載記事

DAUM(ダウム) 旅行記事に対する韓国の方のカキコミから…

- ・ 韓国の観光会社と日本の地方自治体がホ・ヨンマン先生を起用したことは、良い企画だと思います。ホ・ヨンマン先生も、いろいろ考えて決定したのだと思います。韓国の著名な漫画家で、漫画を描く前に色々な面で几帳面に先行取材をして事前研究をよくされる方ですから、日本国内隅々を調べるといことは色々な面で意味がある試みと考えられます。
- ・ 私は日本に住んでいるのですが、韓国で接した日本ととても違った日本に非常に驚きます。いやな点ももちろんありますが、日本人たちには習う点が本当に多いという考えです。我が国の良い点に日本から学ぶ点を加えたら、我が国がさらにどれ位発展することができるだろうか…。日本ならば無条件に悪い点だけ思い浮かべる我が国の人々が、ちょっと視点を変えてくれればと願います。ホ・ヨンマン画伯様ありがとうございます。



にほんの あっちこっち



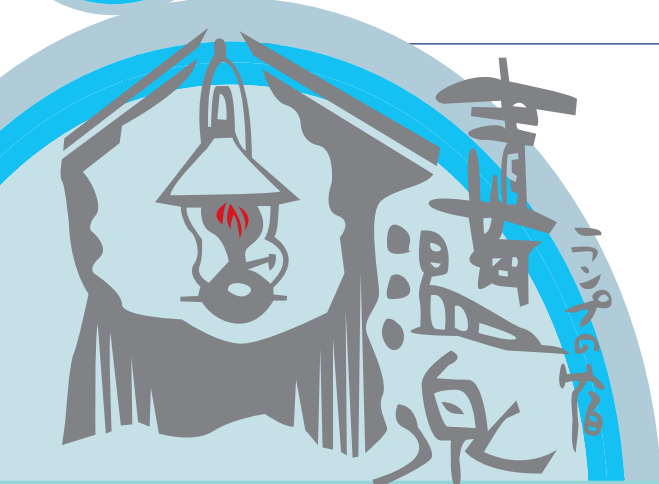
第3回 青森県

青森では、旬のもの、地のものにこだわり、「りんご」や「大間のまぐろ」などを取材しました。

特に「まぐろ」取材では、「大間超マグロ祭り」での「マグロ解体ショー」を取材するとともに、地元の漁協の協力を得て実際に漁船に乗り洋上に繰り出しました。残念ながら釣果はなかったものの、急遽漁師さんと夕食をご一緒することになりました。席上では、漁師さんの長年の経験に基づき「釣果を出す」ことの難しさについてわかりやすく説明頂きました。

後日談ではありますが、ホ・ヨンマン氏もこの体験が特に印象深かったようで、韓国に戻られてから、連載中の漫画「食客」の中に日本から来た「まぐろ解体職人？」を登場させたほどです。

また、300年の伝統を誇る酸ヶ湯温泉、自然の中のランプの宿青荷温泉も、すばらしい体験となりました。



青森県 新幹線・交通政策課 清野 浩輝さん

クレア事業でなければつながりなかったであろうホ・ヨンマン画伯は、非常に朗らかで、なにより人情を大切にする方でした。画伯には、本州最北端の観光資源や食の魅力はもちろんですが、秋晴れの下、画伯が直接ふれた地元の溢れる人情味も一つの青森の魅力として、韓国内で発信していただければ大変ありがたいと思っています。



青森県取材日程概要

月日	地名	スケジュール
1 10.23 (金)	青森市 五所川原市 青森市	青森空港着 立佞武多(たちねぶた)の館 酸ヶ湯温泉
2 10.24 (土)	十和田市	奥入瀬溪流散策(紅葉の最盛時) 十和田湖遊覧船 古牧温泉
3 10.25 (日)	大間町	大間超マグロ祭り(解体ショー・漁船へ乗船) 夕食: マグロ料理
4 10.26 (月)	平内町 黒石市	昼食: ほたて料理・ヒラメ 青森県りんご研究所 黒石りんご農家 南田温泉(りんご風呂) 夕食: 郷土料理(津軽三味線鑑賞)
5 10.27 (火)	弘前市	弘前城公園等 昼食: リンゴ料理 弘前りんご農家(「キセキのリンゴ」)
6 10.28 (水)	黒石市 青森市	青荷温泉(ランプの宿) 青森県青山副知事表敬訪問 青森空港発



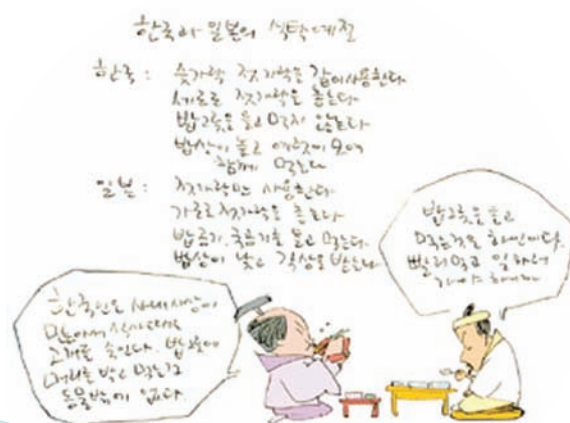
青山青森県副知事を訪問



クレア・ソウルから見た取材の方向性

ホ・ヨンマン氏は常日頃から、地元の風土に根ざした食や文化に関心を持っています。なぜその食べ物はその地域でよく食べられるか?あるいは、どうしてその地域で作られたものが人気を博しているのかなどについてです。

また、韓国の急速な近代化(都市化)によって、昔からの**伝統文化**が失われつつあることを危惧しています。このため、今も日本の各地域に残る文化がいかに現代に引き継がれてきたのかを韓国の読者に少しでも伝えられればと考えておられます。





にほんの あっちこっち

第4回 鹿児島県



鹿児島県取材ルート (12月18日～12月23日)

- 1日目
- 2日目
- 3日目
- 4日目
- 5日目
- 6日目



* 右のページの写真番号を参照

鹿児島では、鹿児島ブランドとして有名な「さつま黒豚」や「さつま焼酎」、健康食として注目される「黒酢」、日本料理の味の基本「鰹ぶし」など、特色ある鹿児島県の食文化を取材しました。

食以外でも多くの素晴らしい出会いに恵まれました。中でも人気温泉旅館「天空の森」の田島社長とは、兄弟の契り(?)を結ぶほどの仲になり、取材後もお手紙を交わされているとか。

また、通訳をしていた国際交流員のかつてのホームステイ先の「ホストご夫婦」がわざわざ大隅横川駅まで会いに来てくださるなど、鹿児島県の人たちの温かさにも触れる取材となりました。

さらに、400年の歴史を超えて韓国への熱い思いを抱かれている薩摩焼陶芸家、第14代・第15代「沈寿官」氏との出会いも忘れられません。

ホ・ヨンマン氏は、日本各地の食文化や観光の取材のみならず、その土地で出会う人々の「人情」に触れることをとても楽しみにしていっています。

そして、自分の取材記が「日本と韓国の相互理解のかけし」になれば…。ホ・ヨンマン氏にはそういった意欲も持ちながら取材を行っていただいています。



鹿児島県 観光課 蔭山 康代さん

実際にお会いしたホ・ヨンマン画伯は気さくなお方で、取材内容とともに、取材相手の内面までも深く知ろうとされていた姿勢が印象に残っています。観光の取材にとどまらず、画伯と地元鹿児島県のみなさんの心の交流ができたことを、一鹿児島県民としても嬉しく思います。

また、私自身クレア・ソウルOBですが、観光などの新たな事業に進出することで、これからも時代のニーズに合った自治体への貢献をクレアにしていきたいと思っています。





伊藤鹿児島県知事を訪問

鹿児島県の あっちこっち



①薩摩焼・沈寿官氏の窯元



②「天空の森」田島社長と



③福山・黒酢醸造場の取材



④大隅横川駅での出会い



⑤枕崎の鰹ぶし工場



⑥さつま焼酎のかめ壺



⑦郷土料理店の店長と



⑧黒豚のしゃぶしゃぶを美食



にほんの あっちこっち



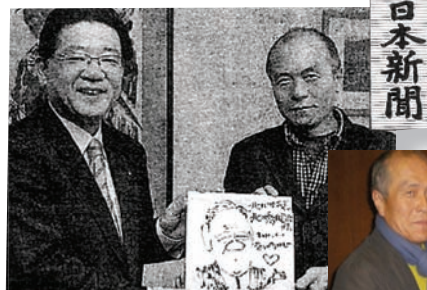
第5回 北部九州 (北九州市、大分市、別府市)

北九州市では旬を迎えた“ふぐ”(本場では「ふぐ」を「ふく」といいます)をはじめとした関門海峡の魚を味わいました。老舗の「もり田寿司」での芸術的な寿司も印象に残りました。

初めてそば打ち体験をされましたが、周りが驚くほど上手に打っておられました。

大分では地元で人気の居酒屋で郷土料理を楽しむなどの食体験、別府の明礬温泉や地獄巡りなど、五感で体感しながらの取材となりました。

そして、ホ・ヨンマン画伯の人柄もあってか、どこに行っても皆さんとても親切でした。労働者が終業後立飲みで疲れを癒す「角打ち」なども訪れ、「人情が溢れた」旅になったとおっしゃっていました。



北橋北九州市長を訪問



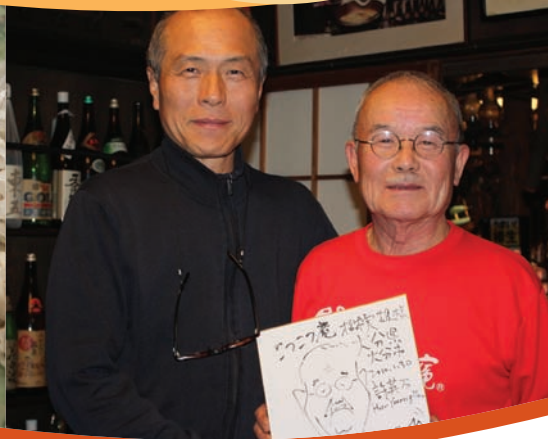
海老井福岡県副知事を訪問



北九州市 観光課 杉本 誠さん

韓国漫画界の第一人者であるホ・ヨンマン画伯の研ぎ澄まされた五感で味わっていただいた、北九州市及び北部九州・関門地域の人情、風景、食文化などを韓国内で広く紹介していただける幸せを感じています。取材先の関係者が、一人の例外もなく、満面の笑みと感謝の気持ちをいだかれたことに、画伯の人柄が伺えました。本事業をクレア・ソウル事務所と協同させていただいたことで、国際的な観光誘致業務の実施に自信が持てましたことに、あらためて感謝いたします。





ホ・ヨンマン画伯による北九州市等取材 実施行程表

1	1/30 (土)	仁川-福岡 JRで 博多~由布院 ~大分	夕食: 大分市内の地元居酒屋「こつこつ庵」 (関サバ関あじ、だご汁、麦焼酎 等) 大将・常連と のふれあい 宿泊: 大分ホテルフィーノ
2	1/31 (日)	大分 別府 バス	午前: 高崎山自然動物園 午後: 明礬温泉、泥湯温泉 昼食: とり天定食 (東陽軒) ひょうたん温泉 等 夕食、宿泊: 温泉旅館あびすや 地獄蒸しの店(湯沢屋) 女中参り
3	2/1 (月)	別府 北九州 (小倉北) JRで 別府~小倉	午前: 地獄巡り 海地獄・血の地獄試(足湯) 午後: 北九州市役所市長表敬 取材陣: 焼きカレー取材 巨通市場 ← 大食堂、百年床、あかべで角うち 夕刻: 「もり田」取材 (寿司) 宿泊: リーガロイヤルホテル小倉

雨の中、取材決行

4	2/2 (火)	下関 北九州 (小倉南・若松) バス	早朝: ぶぐの競り 屋食: そばうち体験 (一くわ) 平尾台 午後: 角打ち (田中酒店) 夕食、宿泊: かねやす (イカ刺し、さわら 等) AM 1:45 集合 AM 4:30 ホテル戻り 海辺散歩
5	2/3 (水)	北九州市 (門司) 福岡-仁川	午前: 門司港レトロ散策 屋食: 「まんねん亀」取材 フクのフルコース トロッコ列車 午後: 福岡県副知事表敬 商店街「昭和レトロ館」 女中参り

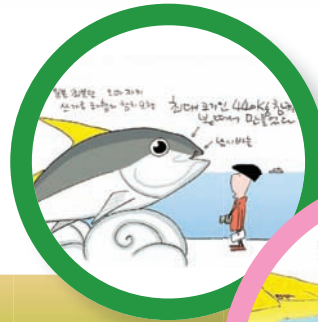


January

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
26/31	25	26	27	28	29	30

February

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6



漫画家 ホ・ヨンマン氏

- 1947年 生まれ。
- 1974年 漫画家デビュー。
- 2004年 「大韓民国漫画大賞」受賞。
- 2006年 『タチャ いかさま師』映画化。

2003年から新聞紙面上で韓国の食文化をテーマとした『食客』を連載。同作品を原作としてドラマと映画が制作され、韓国で公開された。現在までの作品は、アニメーション、テレビドラマ、映画としてリメイクされ、その主演をつとめた俳優には、イ・ビョンホンやキム・レウォンらがいる。

また、2009年5月発足したイ・ミョンバク大統領の夫人を名誉会長とする**韓国料理世界化推進団**の委員にペ・ヨンジュン氏等とともに参加するとともに、自ら描いた絵をラベルとした焼酎、ワインなども販売されている。

映画『食客』は2007年に公開され、観客動員数は**300万人**を突破。

漫画「食客」は、日本語に翻訳され、2009年4月より発売開始。（現在 5 巻まで発刊）
ドラマ版「食客」も2009年より日本の民間衛星放送局で放映開始。

2010年1月末より韓国で映画「食客2」が公開されている。



Q & A ホ・ヨンマン氏インタビュー

Q: 2009年度、5回にわたり日本各地を訪れたご感想は？

A: 実は日本へは30回以上行っているのですが、今回取材で訪れた地域ではいずれも新たな発見があり、貴重な体験をすることができました。

Q: 特に印象に残っていることは？

A: 私はもともと韓国の南の麗水(ヨス)という漁村の出身で、**自然や伝統文化がそのまま残っている所**が好きでして、そういう風情の感じられる温泉旅館などは印象深かったです。次回は個人的に行きたいところもありますね。

Q: 「食客」の作者である画伯としては、食文化も興味を引いたのでは？

A: はい。日本には韓国にない独特の食文化が各地にあって、しかもどれもおいしかったですね。それと**各地の日本酒や焼酎は、各地の食文化と密接につながっている**のを感じました。塩味の濃い秋田料理には甘い日本酒が合い、甘い鹿児島料理にはすっきりした焼酎が合うようです。

Q: 他に印象に残ったことはなにかありましたか。

A: ええ。やはり各地で**心に残る人との出会い**があったことが嬉しかったですね。

Q: どんな出会いがあったのでしょうか？

A: 郷土愛あふれる知事・副知事さんや市長さん、取材に同行してくださった自治体や観光協会、連盟の職員さんたちはもちろんですが、その他にも取材先でおもてなしの心に触れる機会がたくさんありました。帰りの空港まで来て鍋を作ってくださった秋田県「鶴の湯」の佐藤社長さん、プライベートリゾート「天空の森」でもてなしてくださった鹿児島県「雅叙苑」の田島社長さんなど、各地での様々な出会いが私の中では大きな楽しみになってますね。

Q: そのような出会いを通じて感じることはありますか。

A: 日韓の関係についてはいろいろとされていますが、日本各地で素晴らしい出会いを経験している私自身としては、**個人レベルで日韓相互の交流と理解が深まれば、そんなわだかまりもなくなっていく**のではと思っています。私もこうして日本各地を紹介し、日韓交流の架け橋になればと思います。

Q: 最後に、今後この事業を通じてどんなことを伝えていきたいですか。

A: これからも日本各地を時間をかけて**のんびりと巡り、食文化や温泉、自然などの魅力や出会いの感動を伝えられれば**と思います。韓国から日本各地への直行便も多く飛んでいますし、今後も様々な地域に足を運んでみたいですね。

Q: ありがとうございました。

Q: クレア・ソウル

A: ホ・ヨンマン氏

新しいCIRが今年も海を渡ります

「CIRとは… JETプログラムのうち、自治体で国際交流活動に従事する国際交流員の名称です。」

2010年採用の11名の韓国人青年が、4月から自治体に配属されます。

JETプログラムは韓国の青年達から人気が高く、毎年約40倍という難関です。皆さん日本語能力はもちろんのこと、優秀で人柄が良く、何よりも日韓の交流を深めることに熱意を持っているため、選抜するのがむしる困難なほどです。

そんな中、今回採用された青年達は経歴や経験がバラエティ豊かです。

フレッシュな大学新卒者もいれば、社会人経験豊かな青年もいます。

高麗大学や韓国外国語大学、梨花女子大学、釜山大学など、韓国を代表する名門大学出身者も多くいます。

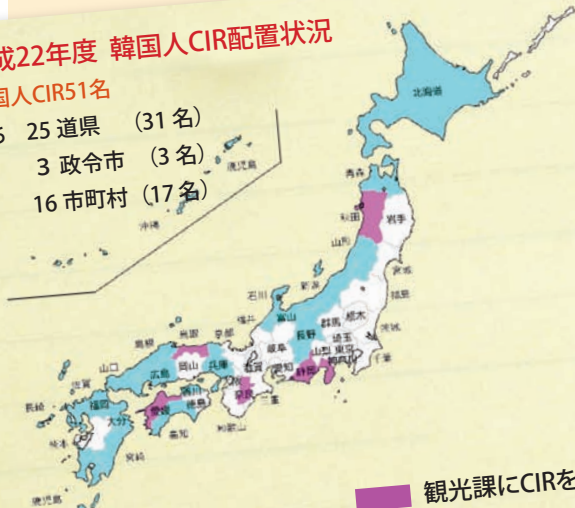
職務経験としては、アルバイトで入った服飾店で若くして店長になった青年や、実際に韓国の旅行会社で働いた経験のある青年もいますので、即戦力としても期待できます。

また、帰国してからもJETプログラム経験者は日本の自治体での職務経験を活かして、韓国の政府系機関や自治体、在韓の日本政府系機関や自治体機関、マスコミ、旅行会社、日系企業、日本語教師など広い分野で活躍しています。

韓国自治体との姉妹都市交流、韓国からの観光誘客、韓国への物産品の輸出など、これから韓国との関係を強化したいとお考えの自治体は、国際交流の貴重な戦力として韓国人CIRの導入を是非ご検討いただければと思います。

平成22年度 韓国人CIR配置状況 韓国人CIR51名

うち 25 道県 (31 名)
3 政令市 (3 名)
16 市町村 (17 名)



観光課にCIRを導入



新規採用CIRコメント 張恵美さん

CIRとして愛媛県に行くことになった張恵美(チャン・ヘミ)と申します。大学時代は日本学を専門に学び、東京や大阪での研修や交換留学、四国での国際ワークキャンプなどを通じて日本について勉強してきました。イギリスに留学したこともあり、このような経験から国際的な視点を持った国際交流員への夢を持つようになりました。

これまで様々な苦労をたくさんしてきましたが、やっとつかった夢への一歩を今踏み出そうとしています。これから愛媛では「ジウ姫」になって韓国の文化を伝え、韓国では「愛媛の千と千尋」になって愛媛の魅力をうまく伝えられるように頑張ります。



元CIRコメント 金青姫さん

(北東北3県・北海道ソウル事務所 勤務)

こんにちは。2000年から3年間、鳥取県関金町のCIRをしていた金青姫(キム・ジュヒ)と申します。現在「北東北3県・北海道ソウル事務所」で働いています。この事務所は青森県・岩手県・秋田県・北海道の合同事務所で、主に観光PR、情報提供、物産交流、教育交流などの業務を行っています。

教育交流や観光PRなどは、CIRの時にも頻繁に行っていた業務なので慣れていましたし、文書作成、人との接し方、イベント企画など、「公」という共通点からみてもCIRの経験はとても役に立っています。今の仕事はCIRの経験をたくさん活かすことができ、充実しています。

豊かな自然や新鮮な海産物、おいしい野菜、果物あふれる4道県にどうぞ遊びに来てください。

韓国地方行政研究院との シンポジウム等の共同開催



韓国地方行政研究院との情報交流協約の締結

日韓両国は、地方自治に関して様々な政策課題を抱えていますが、互いの進んでいる部分を十分理解した上で相互に受け入れ合うことができれば、両国の地方自治の発展に資する部分が多いと思います。

クレア・ソウルでは、2009年12月に、韓国の地方自治に関する総合的な政策研究機関（政府系機関）である「韓国地方行政研究院」と「情報交流に関する協約（MOU）」を締結し、今後共同で研究活動やシンポジウムの開催等を行っていくことに合意しました。



共同研究会の設置・・・今年度の研究テーマ「地方分権・地域主権」

両機関では、共同研究会を設置し、学識経験者や行政担当者等の参加も得ながら、研究を進めていくこととしています。

今年度の研究テーマとしては、日韓両国で大きな政策課題となっている「地方分権・地域主権」を取り上げる予定です。

これにより、韓国側から見ると、「三位一体の改革」や「市町村合併の推進」など日本が近年重ねてきた経験から参考とする点が多いですし、日本側からも、日本とは違った韓国のアプローチや成果が参考になる点が多いと考えられます。なお、地方自治分野での韓国の参考とすべき取り組みについては、本号でも次ページ以降4分野にわたって紹介していますので、ご覧いただきたいと思います。

今年度の研究分野として予定しているもの

- ✓ 国の出先機関を含めた国の権限の地方への移譲、自治体の合併など地方行政分野
- ✓ 自主財源の拡大と財政調整など地方税財政分野
- ✓ 地域経済の振興など地域振興・地域発展分野

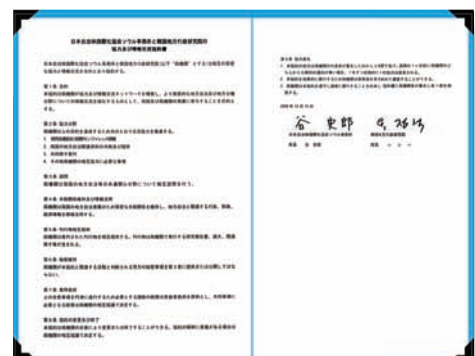


シンポジウムの共同開催

また、このような研究成果を踏まえ、それを広く周知するとともに、日韓の自治体間の協力を進める契機とするため、今年秋に「地方分権・地域主権」をテーマとする国際シンポジウムを、両機関共同で開催することを予定しています。

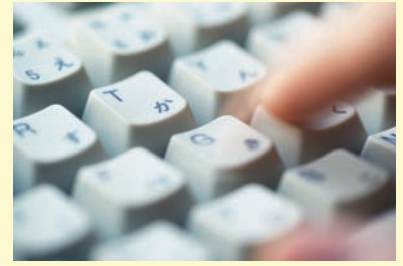
このシンポジウムでは、日韓自治体の首長等の参加を想定し、政策について具体的な発表・討論を行うことを考えています。

共同研究会・シンポジウムの成果については、本クレア・ソウル NewsTodayでも、今後ご紹介していきたいと思います。



韓国地方行政研究院とのMOU締結書

以下では、調査の結果をみなさまに分かり易くお伝えするため、日韓の自治体行政業務システムについて、①システムの特徴、②システムのコスト、③電子政府・電子自治体構築への寄与の3点に絞って、比較・整理をしています。韓国の自治体標準システムの開発の経緯、システムの詳細などについては、クエアレポートをご覧ください。



日・韓の行政業務システムの比較・整理

システムの特徴

日本では…個別自治体毎に、i)システムの開発、ii)運用・管理、iii)年ごとのシステムの改修を行う
 韓国では…全国レベルで、統一的に、i)システムの開発、ii)運用・管理、iii)年ごとのシステムの改修を行う
 ※広域自治体(道・市)では「市道行政情報システム」を、基礎自治体(市・郡)では「セオール行政システム」を統一的に使用



韓国では、運用・管理、システム改修を統一的に行うため、韓国地域情報開発院に「統合運用支援センター」が設けられています。

それでは、このような特徴は、システムのコスト面にどのように反映されているのでしょうか？

システムのコスト

自治体システムのコストに関する日・韓比較(推計値)

区分	団体数	システム導入費	運用・維持保守	合計	自治体当たり	金額単位
韓国	248	59	24	83	0.33	億円
日本	1,847	1,585	2,047	3,632	1.97	億円
韓国/日本	0.13	0.04	0.01	0.02	0.17	

※韓国:韓国情報社会振興院資料及び韓国地域情報開発院資料
 ※日本:総務省 地方公共団体における行政情報化の推進状況調査結果平成21年度資料編
 ※為替レート:1ウォン=0.085円で計算

上記の表のとおり、日韓の人口規模の違い(日本:約1.3億人、韓国:約5千万人)以上に、コストに大きな開きが生じているようです。

電子政府・電子自治体構築への寄与

日本では…データ・ベースがばらばらで、システム間の情報のやりとりができない。このため、システムやデータの統合が難しい
 韓国では…データ・ベースが統合され、システム間の情報のやりとりがスムーズにできる。このため、行政情報を共同利用できる範囲が広い



韓国では、殆どの業務がシステム化され、自治体が同一のシステムを使用(特定業務を除く)することで、自治体の内部はもとより、自治体外部との連携も容易となっています。

このため、自治体の行政業務システムは、先ほど述べたように、電子政府・電子自治体構築のための大きな基礎となっています。

韓国の進んでいる施策を報告します（消防・防災）

消防体制の日韓比較と 韓国中央119救助隊の紹介

韓国における消防体制の特色は、消防事務を広域自治体である市、道が管轄していることや、国家行政機関である消防防災庁が直属の救助隊「中央119救助隊」を持っていることにあります。前提条件が異なるため単純比較は困難ですが、本稿では日韓の消防体制の比較を行いつつ、中央119救助隊を紹介したいと思います。

八木 寿史

消防体制の日韓比較

概況

韓国では各広域自治体に1ないし2の消防本部がおかれており、日本に比べ格段に本部数が少ない状況です。日本との人口比や面積比を前提に考えると、消防署の配置は少なく、出張所等がやや多く配置されています。

消防予算に関しても、国と地方をあわせて2,040億円（1ウォン＝0.085円で換算）となっており、日本の都道府県と市町村の消防費の純計額18,198億円に比べ、低い額に抑えられています（注 i）。

火災鎮圧の状況

韓国における火災発生件数は日本と同等程度と多いですが、ポンプ車等の配備は日本よりもむしろ少なくなっており、1消防署あたりのポンプ車数が多い訳でもありません。

部隊の現場到着時間について、韓国消防防災庁は「5分以内」を目標としているものの、5分以内到着は6割程度にとどまり、約1割は20分以上かかっています（注 ii）。

他方、火災による死者数は日本に比べ低い水準にあります。これは、木造建築物が少ないからではないかと推察されます。

救急対応の状況

韓国における救急出動件数は日本の人口比相当数、これに対応する救急隊数は日本の面積比相当数となっているため、1隊あたりの出動件数は日本の1.3倍程度と多くなっています。

1消防署あたりでは、日本の2.5倍近い部隊が配備されており、日本に比べて集中的に配備、運用されていると言えます。

他方、救急車の現場到着時間は全国平均8分であり、日本の7分より時間がかかっている状況にあります（注 ii）。

人口及び面積並びに消防本部数等の日韓比較

	人口(千人)	面積(km2)	消防本部	消防署	出張所等
韓国	49,255	99,988	17	183	1,584
日本	127,768	377,947	807	1,706	3,218
韓国/日本	0.39	0.26	0.02	0.11	0.49

* 韓国人口、面積は2007東亜年鑑、日本人口はH17(2005)国勢調査、面積は平成21年(2009)国土地理院全国都道府県市町村別面積調、消防本部等は韓国消防防災庁2009消防行政資料及び統計、日本総務省消防庁平成20年(2008)版消防白書参照

火災発生件数とポンプ車配備数等

	火災発生件数	死亡	ポンプ車配備数	ポンプ車数/ 消防署数
韓国	49,631	468	2,095	11.4
日本	54,582	2,005	22,043	12.9
韓国/日本	0.91	0.23	0.10	0.88

* 韓国：消防防災庁2009消防行政資料及び統計

日本：平成18年(2006)度消防施設整備計画実態調査結果

救急隊数と出動件数等

	救急隊数	消防署当 救急隊数	出動件数	1日平均 出動件数	救急隊当 出動件数
韓国	1,310	7.2	1,809,176	4,957	1,381
日本	4,871	2.9	5,290,236	14,494	1,086
韓国/日本	0.27	2.48	0.34	0.34	1.27

* 韓国：消防防災庁2009消防行政資料及び統計

日本：総務省消防庁平成20年(2008)版消防白書

救助対応の状況

韓国における救助件数や救助人員数を見ると、それぞれ日本の約3.5倍、約1.5倍と非常に多い件数となっていますが、救助隊数は日本の約14%で、日本と比べ少ないです。このため、1隊あたりの救助件数は約25倍にのぼります。

救助隊はほぼ各消防署に1隊配備されている計算になります。救助隊の現場到着時間は、全国平均で9.84分となっており、火災鎮圧や救急に比べると、時間がかかっていると言えます(注ii)。

救助隊数と出動件数等

	救助隊数	消防署当 救助隊数	救助件数	救助人員	救助隊当 救助件数	救助隊当 救助人員
韓国	207	1.1	182,619	84,559	882	408
日本	1,500	0.9	52,183	56,039	35	37
韓国/日本	0.14	1.22	3.50	1.51	25.20	11.03

*韓国:消防防災庁2009消防行政資料及び統計

日本:総務省消防庁平成20年(2008)版消防白書



中央119救助隊

設立及び組織等

中央119救助隊は多数の死者を出した1994年聖水大橋崩壊事故や1995年三豊百貨店崩壊事故等大規模で対応困難な事故発生を契機として、中央政府のレベルで大型災害事故に迅速かつ効果的に対応するために、1995年12月発隊したものです。

中央119救助隊は、海外で大規模災害が発生した際には「119国際救助隊」として出動し、現地での救助活動にもあたります。

現在、中央119救助隊はソウル近郊の京畿道南楊州市に所在し、各消防本部から選抜された隊員約100名、3機のヘリコプターと救助工作車3台、救急車2台、消防ポンプ車1台、消防化学分析除毒車1台等18台の車輛、生存者探知機、人命救助犬等の装備を保有しています。

年間予算規模は12億円程度(1ウォン=0.085円で換算)です(注iii)。

任務及び運用

中央119救助隊は各種の大型・特殊災害事故における救助活動を主な任務とし、各地の消防本部(当該消防本部を管轄する市長・道知事)からの要請を受けて出動しています。また、中央119救助隊では、全国で発生している災害の規模や現在出動している消防力をモニタリングすることが出来る「出動情報対応システム」が運用されており、これにより必要と判断する時は要請がなくても出動することがあるということです。

出動は、車輛もしくはヘリコプターでなされます。車輛を遠隔地まで運搬する必要がある場合には、船舶を用いる場合がありますが、大型航空機に搭載できるような、救助工作車等は保有していません。

現場到着までの時間を集計した統計資料はなく、支援時における現場到着までの時間は、条件によってさまざまであるということです。

出動後は、当該地域の消防本部本部長の指揮命令系統に組み込まれて、その指揮の下、救助活動にあたります。

活動実績

2008年における出動件数319件にのぼり、1月のうち、26～27日は出動している計算になります。

また、海外への派遣については、2008年の中国四川省で発生した地震や2004年のスマトラ島沖地震(インド洋津波災害)等2008年までに第8次派遣まで行われています。

評価

中央119救助隊は、自らの活動(2008年の活動)については、効果的に対応を行えたと評価する一方で、①政府全体の方針により、人員増が困難な状況となり、導入したヘリコプターの搭乗救助隊員が不足していることや、②中央119救助隊出動情報対応システムに未接続な消防本部(16市道中4箇所)があること、③活動時の通信システムが建物の地下等一部通信不可地域があること、④人命救助犬の育成を民間企業に頼っていること等が課題となっているとしています。

注 i 韓国消防防災庁2009消防行政資料及び統計、日本総務省平成21年(2009)度地方財政白書

ii 韓国側の現場到着時間は当事務所からの照会に対する韓国消防防災庁回答。日本側は総務省消防庁平成20年(2008)度版「救急・救助のポイント」。

iii 中央119救助隊2009年度主要業務推進計画

韓国の進んでいる施策を報告します (多文化共生)

韓国における多文化共生社会への取組み

～その背景となるもの～

山元 真弓

2009年8月、行政安全部の発表によると、90日以上滞在している韓国国内の外国人住民の数が1,106,884人(2009年5月現在)で、初めて100万人を超えたとのことです。これは、韓国国内の住民登録人口49,593,665人の2.2%に該当し、2006年同時期の536,627人に比べ2倍以上に増加しています。

1980年代、韓国はドイツや中東諸国に国内の労働者を送り出していた「送出国」でしたが、その後の急速な経済発展などを経て、現在では、外国人労働者の「受入国」になっています。1993年には、労働力不足に対応するために、日本の研修・技能実習制度に類似した「外国人産業研修・研修就業制度」が始まり、2004年からは単純技能労働者を受け入れるための「雇用許可制」という新しい枠組みの制度を開始し、多くの外国人労働者を受け入れてきました。

その一方で2000年代になると、国際結婚を通じた結婚移民者が急激に増加し始め、2008年1年間の韓国国内の婚姻数は327,715件で、そのうち外国人との婚姻は36,204件で11%を占めます。特に、農漁村地域の農林漁業従事者男性のうち、41.4%が外国人女性と婚姻しています(統計庁)。中国(朝鮮族を含む)に加え、ベトナム、フィリピン、タイなど東南アジアの女性が多くを占め、これら国際結婚の急増は、これまで韓国社会があまり経験したことのない新たな課題をつきつけています。

このように多人種・多文化社会に急速に変貌を遂げようとしている韓国社会において、韓国政府は外国人の人権保障と多文化主義をモットーとする総合政策へ外国人政策の大転換を行っています。2006年に大統領主催の「第1回外国人政策委員会」を開催し、「外国人政策の基本方向及び推進体系」を樹立しました。その後法務部を中心とした関係部処の協力により、2007年に「在韓外国人処遇基本法」が、2008年には「多文化家族支援法」が制定されました。

2005年に1.08という世界最低レベルの合計特殊出生率を記録し、2018年には高齢社会に突入すると予測されるなど、急速な勢いで少子高齢化が進む韓国では、外国人政策は将来の社会存立に重大な意味を持つと考えられます。

このような背景の下で、前号でもご紹介したとおり、韓国では多文化共生政策に関して国から地方まで一貫した措置が採られており、充実した国庫補助制度もあります。そしてこれは、ほとんどが自治体の努力に委ねられている日本の一歩先を行くものとも言えるでしょう。

韓国の多文化共生政策の詳細につきましては、2010年4月以降に発行予定のクリアレポートをご覧くださいと思います。



韓国の進んでいる施策を報告します（済州特別自治道）

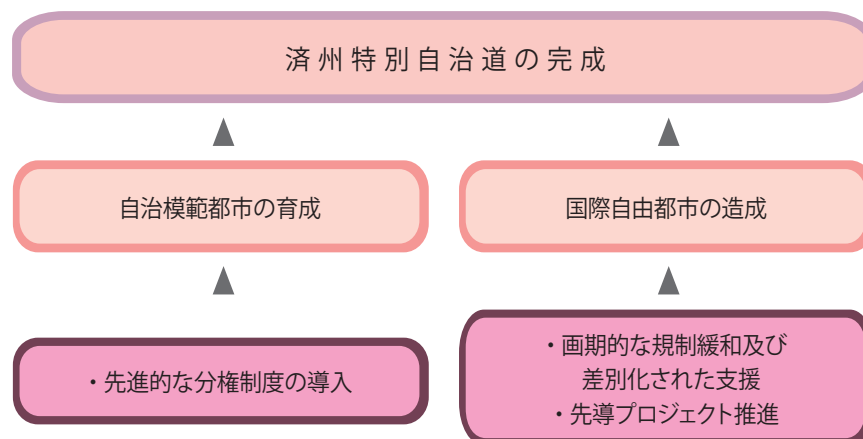
済州特別自治道での試み

～国の出先機関の特別自治道への統合効果～

千葉 雄一郎

韓国の南部にある観光で有名な島「済州島」は、一つの「道（広域自治体）」を形成していますが、2006年7月に法律に基づき「特別自治道」に移行しています。「特別自治道」とは、一般的な「道」に付与される権限とは異なる高度な自治権が保障され、大規模な権限移譲がなされるパイロット自治体で、現在「済州特別自治道」のみとなっています。

「済州特別自治道」の基本的な構成は、高度の自治権を持つ「自治模範都市」の育成と、核心産業分野を中心として競争力を備えた「国際自由都市」の造成の二つの要素からなり、それらを併せて進めることによって、済州島の開発のみならず、国家としても新たな発展の原動力を確保することが目指されています。



現在まで第一次から第三次までの権限委譲がなされ、国土管理や労働など7つの特別行政機関（国の出先機関）の移管、観光関連の国の権限の一括委譲、カジノの許容、英語教育地区の指定などさまざまな政策が進められています。そして現在、第四次の権限委譲が立法予告されており、この中には道内の観光により購入する商品や直接消費に対する付加価値税の実質免税化や、医療特区内での営利型病院の許容など画期的な内容が含まれています。

このうち、注目すべきは、道への特別行政機関（国の出先機関）の移管です。我が国でも、道州制の議論に伴い、国の出先機関のあり方が議論になっていますが、その先事例とも考えられます。

この移管の目的については、①国・地方の事務の統合による行政効率の向上、②道民からの申請手続きの改善の2つとされています。このうち、②に対する評価ですが、道民のアンケートを見ると、i)手続き簡素化、ii)処理期間、iii)施設環境、iv)処理の公平性、v)職員の対応態度の各項目で、2007年から2008年で改善が見られています。

この評価は2007年から始められたばかりですので、これからも評価の動向を見守っていきたいと思っています。



① 世界遺産・城山日出峰

② 先端科学団地予定地

2010年度の事業展開

2010年度のクレア・ソウルは、①日韓の地方分権・地域主権に関する研究会やシンポジウムの「韓国地方行政研究院」との共同開催、②「新世界百貨店」での各自治体の物産展や「新羅ホテル」での日本酒プロモーション等への支援、③韓国著名漫画家「ホ・ヨンマン氏」等による日本の観光地の紹介の三つを事業の柱とする考えです。

そして、このような事業を通じ我々が蓄積した知識やノウハウは、本広報誌等を通じて、自治体の皆様に還元していきたいと思っております。

また、その一環として、自治体職員を対象に、韓国内の「観光」や「物産」の担当者と直接会って、経験を深めるセミナーを計画していますので、ふるってご参加いただきますようお願い致します。

クレア・ソウル事務所長 谷 史郎



各自治体からのご連絡をお待ちしております。



大韓民国ソウル特別市鍾路区鍾路1街1番地 教保BD17 階

Tel. 82-2-733-5681

Fax. 82-2-732-8873

E-mail. info@clair.or.kr

http://www.clair.or.kr